

2012年度（平成24年度）

事業計画書



学校法人 クラーク学園

2012.3.22

目

次

	ページ
1. 法 人	1
2. 短 期 大 学	8
3. 専 攻 科	17
4. キリスト教活動	19
5. 研 究 活 動	22
6. 委 員 会 活 動	34
7. 広 報 活 動	40
8. 財 務 関 係	43

学校法人クラーク学園 和泉短期大学 沿革

- 1952年8月 J.C.クラーク博士が敗戦直後の日本の困窮児を救済するため、G.E. バット博士、V.J.ミルス博士と共に社会福祉法人基督教児童福祉会を設立し、全国の養護施設（現・児童養護施設）への助成を開始。
- 1956年5月 当時、福祉施設従事者の資質の向上が社会福祉界の重要な課題であったため、基督教児童福祉会は、本学の前身である福祉従事者の現任訓練機関バット博士記念養成所を東京世田谷区に開設。
- 1960年5月 現任訓練の成果は、施設保母（現・保育士）養成機関を常設してほしいという強い要望となり、わが国はじめての入所型の児童福祉施設保母（現・保育士）養成機関・玉川保母専門学院を設置。
- 1965年4月 児童福祉事業の進展に伴い、さらに充実した高度な専門教育機関が求められるようになり、玉川保母専門学院はCCF の多大な援助のもと、学校法人クラーク学園和泉短期大学児童福祉科に改組転換。
- 1966年4月 児童福祉科に幼稚園教諭養成課程を設置。
- 1976年8月 神奈川県相模原市に校舎に全学移転。
- 1985年4月 全国に先駆けて老人福祉ワーカーの養成機関・クラーク学園和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）を和泉短期大学に近接して開校。
- 1988年4月 和泉老人福祉専門学校（和泉福祉専門学校）が介護福祉士養成機関として認定。和泉短期大学児童福祉科に社会福祉士国家試験受験資格を取得するための教育課程を新設。（2003 年度より休止）
- 2000年4月 児童福祉科から児童福祉学科へ名称を変更。
- 2004年11月 50 周年記念事業として体育館を竣工。
- 2006年5月 クラーク学園創立50 周年。子育てサロン『はっぴい』を開設。
- 2008年3月 （財）短期大学基準協会の「第三者評価」において『適格認定』の評価を受診。
- 2009年7月 文部科学省・学生支援推進プログラムに選定。
- 2010年3月 和泉短期大学専攻科介護福祉専攻設置に伴い、和泉福祉専門学校を閉校。
- 4月 和泉短期大学に専攻科介護福祉専攻を設置。
- 9月 文部科学省・大学生の就業力育成支援事業に選定。
- 2011年4月 キャリアデザインセンター（CDC）開設

和泉短期大学

学 科 名	入学定員	収容定員
児 童 福 祉 学 科 (2年制)	250名	500名
専攻科介護福祉専攻 (1年制)	20名	20名

クラーク学園の歴史

学校法人クラーク学園の起源は、C C F (Christian Children's Fund, Inc.) 運動による。それは、創始者カルビット・クラーク博士の戦災で苦しむ子どものために、献身するビジョンが、他の人に伝わり、それが連鎖的に次々にひろがり、国境を越え、世界の子どもたちの幸福のために働く愛の共同体として活動を続けている。

学園の起点は、1956年（昭和31年）4月、米国C C Fによって設立された社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念養成所にさかのぼる。第二次世界大戦後、わが国の困窮している人々を救済したララ物資配分責任者バット博士によって、ミルス博士を通して、わが国へのC C F援助の懇請によって実現した。児童福祉施設の子どもへの経済的援助のみでなく、そこに働く職員の資質向上こそ根本的急務であるというC C Fおよび援助施設よりの要請によって、実験的モデル施設と訓練講習会の開催のためにバット博士記念センターが開設された。子どもにとって楽しい明るいホームと人材育成の福祉事業が車の両輪のようなものである。

学園は、急激に変化する社会において、ある時は先駆的に、また社会からの求めに応じ、バット博士記念養成所から玉川保育専門学院、和泉短期大学、和泉福祉専門学校を生み育ててきた。学園の創立と共に、ヨハネ福音書より校名を「和泉」と命名し、「願わくは、このキリストの泉から若者たちの清らかさと愛とが湧き出でんことを」との標語を掲げ、建学の精神「愛と奉仕」のもとで教育事業が実施された。



クラーク学園のロード・マップ(案)

Make a fresh start ～ 新たなる出発 ～

クラーク学園 スクールモットー

— 愛と奉仕 —
love and service

- 隣人を自分のように愛しなさい — マタイによる福音書 22章 39節
- わたしが与える水を飲む者は決して渇かない。わたしが与える水はその人が内で泉となり、永遠の命に至る水がわき出る。 — ヨハネによる福音書 4章 14節

ミッションステートメント(要約)

クラーク学園は、キリスト教の精神に基づき、子どもから高齢者に至るすべてのライフステージに対応する福祉と教育を担う「愛を实践する専門家」を養成することを使命とし、教育はすべての人間の個人の尊厳を尊重し、ライフステージに適合する福祉の「ユニバーサルサービス」の達成をめざし、教え合い学び合う「開かれた教育共同体」の形成を遂行していきます。

教育実践の心構え

MISSION

使命を確認し、
責任を自覚する。

PASSION

業務を、熱意と誠実を
もって行動する。

ACTION

更なる進展、向上に
向けて行動する。

教育目標

和泉短期大学は、建学の精神「愛と奉仕」に基づき、二年間の教育を通して、次のような資質を有する人物を育成することを目標としています

- ① キリストの愛の教えを基盤とし、保育・福祉専門職として人権を尊重する人
- ② さまざまな世代の人々とコミュニケーションがとれる人
- ③ 世界の出来事に目を向け、自ら積極的に考え、学び、行動する人

自らの将来の姿として、上記の考えに賛同し、積極的に学びに励もうとする意思のある人々を私たちは歓迎します。

和泉短期大学 アドミッション・ポリシー

【高等学校までの学習・体験において推奨されること：児童福祉学科】

高等学校在学中になされる幅広い学びと豊かな経験は、福祉・保育を学ぶための基盤となります。下記は、とくに高等学校在学中に取り組むことを推奨する事項です。

1. 福祉・保育関係に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
 2. 福祉・保育現場等でのボランティアを積極的に経験する。
 3. 自己表現とコミュニケーションのスキル（聴く、話す、書く等）を修得する。
- （これらは、児童福祉学科への出願・入学の必須条件ではありません。）

【専攻科入学前までの学習・体験において推奨されること：専攻科介護福祉専攻】

専攻科介護福祉専攻においては、保育士養成校での学びを基盤に、主に高齢者や障がい者を対象とする介護を学びます。下記は、とくに専攻科入学前に取り組むことを推奨する事項です。

1. 社会福祉に関する学習及び科目を総合的に学ぶ。
 2. 高齢者施設、障がい児・者施設等でのボランティアを積極的に経験する。
 3. 対人援助の基礎となる自己表現とコミュニケーションのスキル（傾聴、共感等）を修得する。
- （これらは、専攻科への出願・入学の必須条件ではありません。）

クラーク学園和泉短期大学の基本構想(案)

－2012 年度－

建学の精神である
キリスト教信仰の
堅持と具体化

経営の健全化

教育と研究の充実

外部評価を
大切にして
改善を図る

大学を取り巻く環境

18 才人口の減少 受験生対策	大学進学率		大学の 経営赤字	大学の中退者・進路変更	短大進学者の 減少
	大学	短大			
1990 年 201 万人 2012 年 120 万人	1990 年 24.6% 2012 年 51.0%	11.7% 5.7%	2010 年度 大学 39.2% 短大 57.8%	8 人に1人 質の低下(経済的理由、学習意欲の 喪失、不本意入学、人間関係)	専門学校への 進学者増加 22%

今年度の目標と課題

1. 私学振興財団による経営評価 ・ 教育研究活動によるキャッシュフロー ・ 運用資産と外部負債の関係 ・ 帰属収支差額(資産売却・処分差額を除く) 判定いずれも「A1」 人件費支出・学生納付金収入、68.5%(67.1%) ・ 中途退学者が多い一対策一	5. 災害、緊急時の対応 ・ 原則として、帰宅せず、大学にとどまる ・ 防災倉庫ー青葉2丁目自治会との災害時の食料、 水等の共同利用の締結 「防災倉庫の設置及び共同使用に関する覚書」
2. 就業力育成支援事業の廃止 ・ 産業界のニーズに対応した教育改善、充実体制整備事業	6. 幼稚園と保育園の一体化「認定こども園」 ーこども園への給付ー ・ 教育実習園の確保 ー学生、教員、職員の負担軽減ー
3. 短期大学間の連携及び産業界との連携 ・ そのもとでの就業力の向上 ・ 大学間連携共同教育推進事業ー単位の互換等ー ・ 和泉キャリアデザインセンターの今後の在り方	7. 専攻科の充実ー「介護福祉士の育成の対策・介護人材ワーキング・グループ」 ・ 就職多く、人手不足ー少子・高齢社会ーやりがいのある仕事 ・ 賃金が低い、人手不足、有給休暇が取りにくい、社会的評価が低い等
4. 5号館(旧和泉福祉専門学校)の有効利用 ー相模原市の社会事業に提供ー ・ 和泉総合グラウンドの有効利用について 加山市長と面談の約束 ・ ソーラーシステム(太陽光発電)の設置 ー市の支援ー ソーラーバック(発電電力の販売、電力自給 100%)	8. 206教室の有効利用のために一部改築 ・ 会議室、教室、ML 教室 ・ 大教室の必要性について検討

1. 法 人

2012年度クラーク学園の事業計画

理事長 深 町 正 信

今年度は昨年度と同様に、国内のみならず国外に於いても、経済的に不安定な状況と、先行き不透明感が一層益すことが予想されています。ヨーロッパのユーロ経済圏のみならず、米国もリーマンショック以来の経済不況が続いています。更に、昨年は東日本大震災、福島原発事故により、日本は大被害を受け、その復旧作業は容易ではなく、日本の経済も多くの課題を抱えています。国家予算は1000兆円を超える赤字財政を余儀なくされています。そのような厳しい状況の中で、政界では消費税の増税の実施が検討されています。さらに、東京大学地震研究所の発表によると、東京を中心とする直下型地震が4年以内に発生する確率は70%を超えるとされています。

過日行われた日本私立短期大学協会「理事長協議会」、日本私立学校振興・共済事業団「私学リーダーズセミナー」、私立大学新年賀詞交換会等での挨拶で得た情報によれば、今年度の私立大学関係の国庫助成額は東日本災害地の学校助成、学生への奨学金を除けば、例年に比べて大きな変化もなく、例年通りの国立大学の学生には一人当たり170万円、私立大学の学生には一人当たり17万円助成であるという報告がありました。

文部科学省に採用された本学の現代GP「大学生の就業力育成支援事業」は今年度から無くなりましたが、新たに大学間の連携および産業界との連携のもとに、就業力の向上のための「大学間の連携及び産業界との連携事業」を採択することでした。つまり、大学間の単位の互換等の事業に対してであります。

前者については本学の学生のため、また、教員の教育、研究の向上のために今年度も引き続き実施し、その予算は従来の助成額の4分の1とし、本学として、本年度もこの事業の継続をすることとしたい。

2009年度、2010年度、2012年度の本学の経営判断指標は「教育研究活動によるキャッシュフロー」、「運用資産と外部負債の関係」、「帰属収支差額（資産売却、処分差額を除く）」のすべての項目で最高ランクの判定「A1」の評価を得ることが出来ました。これは法人役員、教員、職員の協力の賜物と心からの感謝を申し上げます。

今年度も、本学は四つのクライテリアのもとに事業を推進していきたい。第一に、建学の精神であるキリスト教信仰に基づく人格の形成とその具体化に努力をしていくことであります。第二に、経営の健全化に工夫と努力を図ることです。資産運用の困難な時代ではありますが、小さな努力を積み重ねて行きたいと思っております。第三に、本学に於ける教育と研究のなお一層の充実を図っていきたい

と考えます。第四に、本学についての評価を大切にして改善を図り、特に外部評価を積極的に受け止めていきたいと願っています。これらの四つの点に照らしつつ、さらなるクラーク学園和泉短期大学の前進を図ってまいりたいと思います。

大学淘汰のブランド戦略としては「地元密着の大学」を目指して相模原市、大きくは横浜市を中心とする地元の高等学校との連携を一層強めていきたい。第二に、「養成型大学」として、将来、子供のための仕事や保育園、幼稚園、社会福祉施設に働きたいという願いに応えて、自分にとって、本当に生き生きと成長できる大学はどこかという、高校生が大学を選ぶ視点の変化に応じた学生の選抜を考えることを教授会に期待したい。

施設、不動産等の健全な運用は今年度も一層重視し、建物、運動場、体育館、駐車場等の外部への貸し出しを積極的に行い、少しでも収入を得るように努めて行きたい。

5号館（旧和泉福祉専門学校の校舎）は出来れば外部に貸し出したいと願ってきたが、ごく最近になりやっと学校が外部貸し出しするに相応しい借り手が出てきたので現在交渉中であります。運動場については現在、いくつかのスポーツ団体に貸し出しているが、維持費が結構かかるので、現在、原発事故により原子力発電に対する反対の空気が強い中で、あの場所にソーラーパネルによる太陽光発電を考え、そこをソーラーパーク（公園）としてはどうかとも考えて、種々の検討をしている。

結びに、本学のみならず、4年制大学においても中途退学者が国立大学の場合でも1600人（1年間）、私立大学では14,000人（1年間）の中途退学者が出ていることは誠に憂慮に堪えない事柄である。和泉短期大学においても、全国レベルの平均よりもやや高い数値の中途退学者が昨年度も出ています。それらの学生の中には経済的理由もありますが、主な理由としては、学習意欲の喪失、人間関係の煩わしさ、自分の夢、関心の変化不本意入学、精神と肉体の疾患、そして、在学中の妊娠、子育てのためということがあると、日本中退予防研究所が公表しています。

和泉短期大学としてはこれまでも学生の担任制、入学前教育、奨学金の充実、講義の充実、生活指導等に万全の対策を実施してきたが、今後は講義の充実、再試験、学生と両親との面接、学習相談等の機会を色々と検討していただくことを是非お願いをしたい。

結びに、聖書の言葉を引用して、終わることとしたい。

「人の心には多くの計画がある。しかし、ことを定めるのはまったく主のなさることである」

クラーク学園

(1)法人事業計画

○理 事 会

2012 年	5 月	26 日 (土)	理事会 (決算)	於：和泉短期大学
2012 年	6 月	2 日 (土)	理事会	於：和泉短期大学
2012 年	10 月	26 日 (金)	理事会	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2013 年	3 月	22 日 (金)	理事会 (予算)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○評議員会

2012 年	5 月	26 日 (土)	評議員会 (決算)	於：和泉短期大学
2012 年	6 月	2 日 (土)	評議員会	於：和泉短期大学
2012 年	10 月	26 日 (金)	評議員会	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野
2013 年	3 月	22 日 (金)	評議員会 (予算)	於：小田急ホテルセンチュリー相模大野

○学内運営協議会

- 出席者：理事長、学長、事務局長、教務部長、学生部長、事務局次長、
庶務ユニットリーダー

2012 年	4 月 11 日 (水)	4 月 18 日 (水)	4 月 25 日 (水)	5 月 2 日 (水)
	5 月 9 日 (水)	5 月 16 日 (水)	5 月 23 日 (水)	5 月 30 日 (水)
	6 月 6 日 (水)	6 月 13 日 (水)	6 月 20 日 (水)	6 月 27 日 (水)
	7 月 4 日 (水)	7 月 11 日 (水)	7 月 18 日 (水)	7 月 25 日 (水)
	9 月 5 日 (水)	9 月 12 日 (水)	9 月 19 日 (水)	9 月 26 日 (水)
	10 月 3 日 (水)	10 月 10 日 (水)	10 月 17 日 (水)	10 月 24 日 (水)
	10 月 31 日 (水)	11 月 7 日 (水)	11 月 14 日 (水)	11 月 21 日 (水)
	11 月 28 日 (水)	12 月 5 日 (水)	12 月 12 日 (水)	12 月 19 日 (水)
2013 年	1 月 9 日 (水)	1 月 16 日 (水)	1 月 23 日 (水)	1 月 30 日 (水)
	2 月 6 日 (水)	2 月 13 日 (水)	2 月 20 日 (水)	2 月 27 日 (水)
	3 月 6 日 (水)	3 月 13 日 (水)		

(2)学園行事

2012 年	4 月 9 日 (月)	イースター特別礼拝
	4 月 23 日 (月)	創立記念礼拝
	11 月 5 日 (月)	召天者記念礼拝
	11 月 26 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月 8 日 (土)	クリスマス・コンサート

2. 和泉短期大学

2012年度和泉短期大学事業計画

学 長 伊 藤 忠 彦

本学は2012年度も、建学の精神を基とし、神より託されたこの教育事業を、神の祝福を願い、祈りつつ取り組み、実施して行く所存である。

2012年度入学の学生募集は、IAO入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、キリスト者推薦、卒業生・在校生家族推薦、一般入試、社会人特別推薦入試と、昨年同様に実施し、介護福祉専攻の専攻科と共に、昨年同様に定員を超える新入生を加え、新年度を迎えることが出来ることは幸いである。

2011年度は保育士養成課程の大幅な改定がおこなわれたが、本学はこの改定に応えるために必要な準備をほぼ終え、新年度を迎えることができることは幸いである。

1) 教職員体制

専任教員22名<専攻科3名> (前年比+1) 学長、教授5名 (+2)、特任教授2名 (±0)、准教授9名 (-1)、専任講師2名 (±0)、助教3名 (±0)、非常勤講師38名 (-5)、事務職員25名 (-1) (契約2名、嘱託1名、パート6名) の体制で事業が進められる予定である。

2) 2012年度学生数

短期大学：2年生281名 (-2) 1年生296名 (+3) 専攻科：21名 (-5) で始めることができる見通しとなった。

3) 学生生活の向上にむけての支援

i) 入学前教育の充実

本学への入学を許可された者に、入学前に行うピアノレッスン、コミュニケーションスキル等の教育を、次年度も、新入生がモチベーションをもち、安心して本学の学生生活に入れるよう、前年の入学前教育プログラムを検証しつつ実施して行きたい。

ii) 保護者との連携

今年も、年2回、学期終了後、学生と保護者に子弟の成績一覧表、授業出席状況、各教科の成績、成績の順位等の情報を提供し、学生生活を、保護者との連携の下に支援して行く予定である。

iii) 退学、休学、留年、除籍学生の増加状況の改善への取り組み

増加しつつある学生の退学、休学等の改善に向けて、要因の調査と分析、高等学校との情報交換、グループアドバイザーを中心とした教職員のサポート体制の強化、現行の入試方法の点検、更なる奨学金の制度の充実等を図って行きたい。

iv) FD&SD (教職員全スタッフ) の教育力強化へ向けての努力

次年度も、学生の授業評価を受け、教員の教育力向上に向けた努力、また全教職は真摯でホスピタリティーをもった学生支援に努めたい。

4) 自己点検評価の実施

1996年以来、短期大学の質の保証と向上を目指し、実施してきた自己点検自己評価を実施し、教育、研究・学生支援、財政等の改善に努めたい。

5) 文科省助成事業 (5年) の本年度末での中断に伴う本学の対策

i) 本学がこれまで2年間推進してきた、文科省助成事業「就業力向上推進プログラム」が、行政刷新会議の仕分けにより、2011年度末をもって終えることになった。しかし、本学はこの支援事業を、CDC(キャリア・デザイン・センター)の立ち上げ等、その目的推進のために、助成金を超える資金を投入してきたこと、またその目的は今後も本学の教育の重要な事業としなければならないとの思いから、今後も、規模を縮小してでも進めて行く所存である。

また、この文科省公募プログラムの中断にともない、次年度公募される予定の「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備」プログラムに、地域の大学・短期大学との連携で応募する計画を進めている。

ii) 夏期リカレント講座の開催等の事業の継続

今年も、卒業生等の就業力の向上に向けて、7月31日(火)本学の教員を中心とした講座を開催する予定である。

iii) 子育てひろば「はっぴい」事業の継続と「親子開放日」の開催

2011年度は、それまで毎土曜日、体育館リミック室で行なわれてきた「はっぴい」を、CDセンター設立とともにセンターに移し、更に11月より、自由に親子で過ごせる「親子開放日」を毎木曜日始めることができたが、2012年度もこれを継続してゆく予定である。

6) 保育者養成校として、本学が直面している諸問題への取り組み

政権交代によって、2010年、新政権のもと「幼稚園教諭養成」の新しい提案、また保育現場である幼稚園、保育所における「幼保一体化」「子ども園」構想等、本学のこれまでの態勢を大きく左右すると予想される教育改革案は決まらず、尚、迷走状態にある。本年に入り、2014年より「総合こども園」(幼稚園・保育園・その他の指定施設)を組み合わせた総合施設の発足が新聞等で報道されており、今後は更に、政府の動向に注視し、保育者養成校、また幼稚園、保育園との関係を密にし、確かな情報を得るように努め、対応できる態勢を維持して行くつもりである。

7) 法人将来検討委員会、並びに大学作業部会の開催

6) で取り上げた保育養成校の直面する早急の課題への取り組みのためにも、しばらく開催されてこなかった将来検討委員会を開催し、保育養成に関わる子ども・子育て新システムと入学前保育・教育についての動向の把握と、本学の展望を検討して行くことが直近の課題である。

3月の定例教授会後に、教職員有志の提案で、教員に事務職員を加え、上記のテーマで懇談し、コンセンサスをもってこの新しい状況と課題に取り組む予定であるが、これを機に、次年度も、このような会が出来ればと思う。

8) 一層の入試・広報の改善と高等学校との連携の強化

2012年度も、昨年度に続き、2011年度の入試実施の成果を検証し、広報活動、並びに高等学校との連携の一層の強化(福祉・保育・幼児教育を目指す高校生への働きかけ等)に努めて行きたい。

9) 奨学金制度の充実並びに教育ローンの紹介等による学生支援

経済の悪化にともなう、経済的困難にある学生の増加に対応し、次年度も、新たに、大学、同窓会・父母会の協力をいただき、これまで以上の奨学金の充実を図って行く所存である。

10) 就職・進学、並びに進路指導の一層の充実

2012年度も、中断された文部科学省選定プログラム「保育就業力向上推進プログラム」を、これまでのプログラムに従い、本学自力で継続し、就職、進学、進路指導の充実に向けてゆく所存である。

また、これまで同様、2年生を対象に、進路支援講座、卒業生を招いての懇談会、の開催等、学生が自信をもって就職・進学先の開拓に臨めるよう指導して行きたい。

1 1) 教職員間の更なる協力の必要性

本学の教育の本分を十分に発揮するため、また直面している種々の危機回避、克服のために、教職員間の信頼と教職員相互の協力に努力して行きたい。

1 2) 和泉短期大学父母会

今年度も会報発行、奨学金による学生支援、ミニチュアのステンドグラスの寄付、体育系サークルへの横断幕の寄付、全国私立短大体育大会に参加した学生に対してのクオカードの寄付、和泉祭参加、保護者関係の葬儀での献花、卒業式のガウン貸し出しと保管・父母会総会（入学式時）の父母懇親会開催役員会、また次年度も、2012年度生の父母役員を加え、学校へのご協力をいただける予定である。（担当部署：学生支援ユニット）

1 3) 同窓会いずみ

今年度も、新に2012年度卒業生を加え、総会&茶話会、和泉祭～いずみのひろっぱ～開催、会報「いずみ」発行、在学生への奨学金支援、本学のホームページ「同窓会からのお知らせ」「掲示板」の運用等、協力いただける予定である。また、本学と同窓生、また同窓生間の交流や情報発信の働きを担っていただき、同窓会長には卒業式・入学式等でご挨拶をいただく予定である。（事務所：2号館1階）（担当部署：広報渉外ユニット）

1 4) 後援会

2012年度も、「和泉短期大学の発展に寄与し、父母会活動を支援し、また相互修養と交流を図ることを目的」の下に、ほぼ同じ体制でご支援いただけるとのことで、感謝している。全国私立短大体育大会の参加サークルに対する飲物の寄付、体育サークルへの横断幕の寄付、「後援会便り」の発行、「いずみ祭」参加、役員の牧師先生方のチャペルでの説教のご奉仕等、ご支援いただく予定です。（担当部署：学生支援ユニット）

1 5) 第53回 日本キリスト教社会福祉学会の会場校に

2012年6月22日（金）～23日、本学を会場に第53回日本キリスト教社会福祉学会が「今日におけるキリスト教社会福祉の役割—希望の光が見える新たな社会づくり—」をテーマで行なわれる予定で、本学の実行委員を加えて準備が進められて来ている。

これまで本学を会場に、第2回大会（1961年）、第30回大会（1989年）、47回大会（2006年）と行なわれてきている。今回も、良い大会になるよう願って準備をすすめる所存である。

(1) 学事予定

2012 年	3 月	30 日 (金)	2 年前期始業礼拝、前期オリエンテーション、グループミーティング
	4 月	2 日 (月)	入学式
		3 日 (火)	1 年前期オリエンテーション①
			2 年、専攻科健康診断、教科書販売、専攻科オリエンテーション①
		4 日 (水)	レクリエーション大会
			専攻科前期オリエンテーション②
		5 日 (木)	1 年前期オリエンテーション②
			2 年、専攻科前期授業開始
		6 日 (金)	1 年健康診断、教科書販売
		7 日 (土)	1 年新入生研修会
		9 日 (月)	1 年前期授業開始
			イースター特別礼拝
		23 日 (月)	創立記念礼拝
		25 日 (水)	実習連絡会 (幼稚園)
5 月	7 日 (月)		2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈5 月 26 日 (土) まで〉
			避難訓練、高校教員進学説明会①
		9 日 (水)	高校教員進学説明会②
		28 日 (月)	家庭科・福祉関係科目担当教員懇談会
6 月	11 日 (月)		専攻科介護実習 I 〈6 月 19 日 (火) まで〉
		13 日 (水)	実習連絡会 (児童福祉施設)
		18 日 (月)	2 年現場実習 (幼稚園・児童福祉施設) 〈7 月 7 日 (土) まで〉
		22 日 (金)	日本キリスト教社会福祉学会 〈23 日 (土) まで〉
		30 日 (土)	介護技術講習会①
7 月	1 日 (日)		介護技術講習会②
		3 日 (月)	かながわ高齢者福祉研究大会
		7 日 (土)	介護技術講習会③
		8 日 (日)	介護技術講習会④
		28 日 (土)	1 年夏期休業開始 〈9 月 27 日 (木) まで〉
		31 日 (火)	2 年夏期休業開始 〈9 月 2 日 (日) まで〉
8 月	1 日 (水)		専攻科夏期休業開始 〈9 月 2 日 (日) まで〉
		20 日 (月)	1 年、専攻科成績報告締切日
		31 日 (金)	専攻科後期始業礼拝、オリエンテーション、前期再試験発表、教科書販売
9 月	3 日 (月)		1 年一般教養対策講座、2 年前期授業再開、専攻科後期授業開始
		10 日 (月)	1 年ボランティアウィーク 〈9 月 18 日 (火) まで〉
			専攻科前期再試験日 〈11 (火) まで〉
		11 日 (火)	専攻科実習連絡会
		18 日 (火)	2 年現場実習 (保育所・児童福祉施設) 〈10 月 3 日 (水) まで〉

9 月	19 日 (水)	1 年後期始業礼拝、オリエンテーション、前期再試験発表、教科書販売
	26 日 (水)	1 年前期再試験日 〈27 日 (木) まで〉 2 年成績報告締切日
	28 日 (金)	1 年後期授業開始
10 月	4 日 (木)	2 年後期始業礼拝、オリエンテーション、前期再試験発表、教科書販売
	5 日 (金)	2 年後期授業開始
	6 日 (土)	特待生資格選考日
	13 日 (土)	専攻科入試 i 日程
	26 日 (金)	学生祭週間 〈29 日 (月) まで〉
	27 日 (土)	いずみ祭、個別相談会⑦、⑧ 〈28 日 (日) まで〉
	27 日 (土)	入学選考日 [指定校、卒業生・在学生家族、キリスト教推薦、iAO (A 日程)]
11 月	5 日 (月)	召天者記念礼拝 専攻科介護実習Ⅱ 〈12 月 8 日 (土) まで〉
	17 日 (土)	公募・専門高校推薦、社会人入試 パネルシアターの会
	19 日 (月)	合否判定教授会
	20 日 (火)	専攻科帰校日
	26 日 (月)	クリスマスツリー点火祭
	12 月 1 日 (土)	専攻科 B 日程入試
	8 日 (土)	クリスマスコンサート
2013 年	17 日 (月)	クリスマス礼拝
	22 日 (土)	冬期休業開始 〈2013 年 1 月 6 日 (日) まで〉
	1 月 7 日 (月)	後期授業再開
	23 日 (水)	実習連絡会 (保育所)
	2 月 4 日 (月)	1 年後期授業終了
	5 日 (火)	2 年追・再実習追加分 (幼稚園) 〈7 日 (木) まで〉
	6 日 (水)	一般入試、C 日程入試
	8 日 (金)	専攻科後期授業終了
	9 日 (土)	2 年後期授業終了
	12 日 (火)	1 年保育実習 (保育所) 〈2 月 27 日 (水) まで〉 2 年追再実習
	15 日 (金)	2 年、専攻科成績報告書締切日
	20 日 (水)	1 年成績報告書締切日 2 年、専攻科後期再試験発表 専攻科卒業試験
	22 日 (金)	専攻科卒業試験講習会①
	25 日 (月)	専攻科卒業試験講習会②
	26 日 (火)	専攻科卒業試験再試験

2月	27日(水)	2年、専攻科再試験
	28日(木)	1年後期再試験発表 2年追再実習者再試験
3月	4日(月)	おもちゃインストラクター養成講座〈5日(火)まで〉
	6日(水)	専攻科D日程入試
	7日(木)	1年後期再試験〈8日(金)まで〉
	14日(木)	2年卒業感謝礼拝、卒業証書・学位記授与式予行練習 専攻科終了感謝礼拝・終了証書授与式予行練習
	15日(金)	2年卒業証書・学位記授与式 専攻科終了証書授与式
	29日(金)	1年前期始業礼拝、オリエンテーション、グループミーティング

(2) 実 習

2012年	5月	7日(月)	～5月26日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	6月	11日(月)	～6月19日(火)	専攻科介護実習Ⅰ
	6月	18日(月)	～7月7日(土)	2年幼稚園・児童福祉施設
	9月	18日(火)	～10月3日(水)	2年保育所・児童福祉施設
	11月	5日(月)	～12月8日(土)	専攻科介護実習Ⅱ
2013年	2月	12日(火)	～2月27日(水)	1年保育所、2年追再実習

(3) 2013年度 児童福祉学科入試日程

iAO入試Ⅰ期

2012年	7月7日(土)	面 談	A
	7月21日(土)	面 談	A ・ B
	28日(土)	面 談	B
	7月30日(月)	出願許可判定教授会	
	8月1日(水)	出願許可通知発送日	
	8月2日(木)～8月24日(金)	出 願 手 続 期 間	
	9月3日(月)～9月11日(火)	入 学 手 続 期 間	
	9月3日(月)	合 否 承 認 教 授 会	

iAO入試Ⅱ期

2012年	8月1日(水)	面 談	A
	8月20日(月)	面 談	A ・ B
	8月29日(水)	面 談	B
	9月3日(月)	出願許可判定教授会	
	9月4日(火)	出願許可通知発送日	
	9月5日(水)～9月12日(水)	出 願 手 続 期 間	
	9月14日(金)～9月26日(水)	入 学 手 続 期 間	
	9月26日(水)	合 否 承 認 教 授 会	

iA0 入試Ⅲ期

2012 年 9 月 29 日(土)	面 談 A
10 月 6 日(土)	面 談 A ・ B
10 月 13 日(土)	面 談 B
10 月 15 日(月)	出願許可判定教授会
10 月 16 日(火)	出願許可通知発送日
10 月 17 日(水)～10 月 24 日 (水)	出 願 手 続 期 間
10 月 26 日(金)～11 月 5 日 (月)	入 学 手 続 期 間
11 月 3 日(土)	合 否 承 認 教 授 会

iA0 入試Ⅳ期 (1 月)

2013 年 1 月 19 日(土)	面 談 A
1 月 26 日(土)	面 談 B
1 月 30 日(水)	出願許可判定教授会
1 月 31 日(木)	出願許可通知発送日
2 月 1 日(金)～2 月 8 日 (金)	出 願 手 続 期 間
2 月 12 日(火)～2 月 21 日 (木)	入 学 手 続 期 間
2 月 22 日(金)	合 否 承 認 教 授 会

iA0 入試Ⅳ期 (2 月)

2013 年 2 月 13 日(水)	面 談 A
2 月 20 日(水)	面 談 B
2 月 20 日(水)	出願許可判定教授会
2 月 21 日(木)	出願許可通知発送日
2 月 22 日(金)～3 月 1 日 (金)	出 願 手 続 期 間
3 月 4 日(月)～3 月 13 日 (水)	入 学 手 続 期 間
3 月 6 日(水)	合 否 承 認 教 授 会

iA0 入試Ⅳ期 (3 月)

2013 年 2 月 27 日(水)	面 談 A
3 月 6 日(水)	面 談 B
3 月 6 日(水)	出願許可判定教授会
3 月 7 日(木)	出願許可通知発送日
3 月 8 日(金)～3 月 14 日 (木)	出 願 手 続 期 間
3 月 15 日(金)～3 月 21 日 (木)	入 学 手 続 期 間
3 月 18 日(月)	合 否 承 認 教 授 会

特待生資格選抜

2012 年 9 月 10 日(月)～ 9 月 21 日 (金)	受 付 期 間
10 月 6 日(土)	選 考 日
10 月 10 日(水)	判 定 教 授 会
10 月 11 日(木)	通 知 発 表 日

指定校推薦

2012 年 10 月 11 日(木)～10 月 17 日 (水)
11 月 3 日(土)
11 月 3 日(土)
11 月 4 日(日)
11 月 5 日(月)～11 月 15 日 (木)

願 書 受 付 期 間
入 学 選 考 日
判 定 教 授 会
合 否 通 知 発 送 日
入 学 手 続 期 間

卒業生・在学生家族推薦

2012 年 10 月 11 日(木)～10 月 19 日 (金)
11 月 3 日(土)
11 月 3 日(土)
11 月 4 日(日)
11 月 5 日(月)～11 月 15 日 (木)

願 書 受 付 期 間
入 学 選 考 日
判 定 教 授 会
合 否 通 知 発 送 日
入 学 手 続 期 間

キリスト者推薦

2012 年 10 月 11 日(木)～10 月 19 日 (金)
11 月 3 日(土)
11 月 3 日(土)
11 月 4 日(日)
11 月 5 日(月)～11 月 15 日 (木)

願 書 受 付 期 間
入 学 選 考 日
判 定 教 授 会
合 否 通 知 発 送 日
入 学 手 続 期 間

公募推薦・専門高校推薦

2012 年 10 月 22 日(月)～11 月 9 日 (金)
11 月 17 日(土)
11 月 21 日(水)
11 月 21 日(水)
11 月 22 日(木)～11 月 30 日 (金)

願 書 受 付 期 間
入 学 選 考 日
判 定 教 授 会
合 否 通 知 発 送 日
入 学 手 続 期 間

社会人特別選抜

2012 年 10 月 22 日(月)～11 月 9 日 (金)
11 月 17 日(土)
11 月 21 日(水)
11 月 21 日(水)
11 月 22 日(木)～11 月 30 日 (金)

願 書 受 付 期 間
入 学 選 考 日
判 定 教 授 会
合 否 通 知 発 送 日
入 学 手 続 期 間

一般入試

2013 年 1 月 10 日(木)～2 月 1 日 (金)

2 月 6 日(水)

2 月 6 日(水)

2 月 7 日(木)

2 月 8 日(金)～2 月 20 日 (水)

2 月 21 日(木)～3 月 15 日 (金)

願 書 受 付 期 間

入 学 試 験 日

判 定 教 授 会

合 否 通 知 発 送 日

入 学 手 続 期 間

入学辞退受付期間

3. 専攻科

2012年度 専攻科介護福祉専攻の事業計画

2015年度生の専攻科入学生から介護福祉士の国家試験が養成校卒業生にも課せられることになった。それに伴い、2015年度には医療的ケアの科目（50時間）を実施しなければならない。また、2級訪問介護員（ヘルパー）が国家試験を受ける際にも介護基礎研修（450時間）を修了していることが条件になってくる。それらに、どう対応するか今後検討していく必要がある。さらに、現時点で働きながら介護福祉士をめざす介護職の支援をしていきたいと考えている。

今年度の入学者は2月現在、本校の学生21名（男子1名、女子20名）である。

1) 授業の充実を図る

今年度から専攻科専任教員3名の他、児童福祉学科教員3名が専攻科授業を受けもつことになり、専攻科教員も児童福祉学科科目を担当するなど、大学における教員間の連携が図られる。

2) 同窓生への対応

7月のリカレントにおいて、新カリキュラムや医療的ケアなど介護に関する知識や技術を7月のリカレントに卒業生が参加するよう働きかける。そのことが卒業生との交流の場となり、進路や相談等の情報交換が可能になる。

3) 現場で働く介護福祉士の支援

現場で働いている介護職が介護福祉士の国家試験を取得するには、筆記試験と介護の実技試験がある。現在、和泉短期大学専攻科は、介護の実技試験を免除となる介護技術講習会を開講している。講習会に参加している受講生から筆記試験の対策等の要望が多い。

そこで、専攻科も介護福祉士の筆記試験対策を実施する。それにより、相模原市内等の高齢者施設等で働く介護職の資格取得支援につながり、介護職の質を高めることになる。また介護福祉士資格の介護職が施設等に増えることによって、実習施設での学生への指導に関しても好影響を与える。さらに、教員にとっても、今後の国家試験対策の準備につながる。同時に、昨年同様、介護技術講習会の充実を図っていく。

4) 地域の介護職のスキルアップの支援

相模原市高齢者福祉施設協会（高齢協）主催の介護職の新任・現任研修の講師を担当する。福祉現場で働く介護職の知識や技術の向上をめざす。また無資格で介護施設で勤務している実態もあり、その方々の学ぶ機会を高齢協と連携しながら進め、介護の質の底上げを図りたい。

5) 市民大学の講師担当

介護や福祉について、地域住民の方々と話し合い、学びあう場を今年度も充実していきたい。

専攻科 介護福祉専攻 2013 年度入試日程

i 日程 (学内在学生入学選考)

2012 年 9 月 27 日(木)～10 月 4 日(木)	申 込 期 間
10 月 13 日(土)	入 学 試 験 日
10 月 15 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
10 月 20 日(木)	通 知 発 送 日
10 月 21 日(金)～11 月 9 日(水)	入 学 手 続 期 間

A 日程

2012 年 10 月 15 日(月)～10 月 26 日(金)	願 書 受 付 期 間
11 月 3 日(土)	入 学 試 験 日
11 月 3 日(土)	合 否 判 定 教 授 会
11 月 4 日(日)	合 否 通 知 発 送 日
11 月 5 日(月)～11 月 15 日(木)	入 学 手 続 期 間

B 日程

2012 年 11 月 16 日(金)～11 月 28 日(水)	願 書 受 付 期 間
12 月 1 日(土)	入 学 試 験 日
12 月 3 日(月)	合 否 判 定 教 授 会
12 月 4 日(火)	合 否 通 知 発 送 日
12 月 5 日(水)～12 月 14 日(金)	入 学 手 続 期 間

C 日程

2013 年 1 月 24 日(火)～2 月 1 日(水)	願 書 受 付 期 間
2 月 6 日(水)	入 学 試 験 日
2 月 6 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
2 月 7 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
2 月 8 日(金)～2 月 22 日(金)	入 学 手 続 期 間

D 日程

2013 年 2 月 18 日(月)～3 月 1 日(金)	願 書 受 付 期 間
3 月 6 日(水)	入 学 試 験 日
3 月 6 日(水)	合 否 判 定 教 授 会
3 月 7 日(木)	合 否 通 知 発 送 日
3 月 8 日(金)～3 月 15 日(金)	入 学 手 続 期 間

※各入試の入学辞退期間は、～3 月 14 日(木)までとする。

4. キリ ス ト 教 活 動

1. 概要

本学での学びを経て、人を教え、育て、支える担い手となる学生一人一人が聖書の教えを深く理解することで、神を敬う心と隣人に仕える心が培われることを目指し、下記のキリスト教活動を展開していく。

2. 組織

宗教委員会は、宗教部長、チャプレン、教授会成員の中から学長が指名した教員、庶務ユニットリーダー、同ユニット職員によって構成される。

3. 活動内容

1 年間聖句

一年間を通して学生と教職員の学園生活を導いてくださる神様からの御言葉として年間聖句を定める。毎週のチャペルアワーのプログラムに掲載し、各人が心に留めることができるようにする。

2 始業礼拝

前期・後期の始業時に学びと学生生活が守られるようともに礼拝を捧げる。

3 チャペルアワー

和泉の建学の精神である「愛と奉仕」をともに学ぶことを目的とし、毎週月曜日午前 10 時 40 分から 11 時 15 分のチャペルアワーを計画し、実施する。

※チャペル日程は、別紙「2012 年度チャペルアワー・礼拝日程」の通り。

4 特別礼拝（下記の特別礼拝を計画、実施する。）

1. イースター礼拝（4 月 9 日）
2. 創立記念礼拝（4 月 23 日）
3. 召天者記念礼拝（11 月 5 日）
4. クリスマスツリー点火祭（11 月 26 日）
5. クリスマス礼拝（12 月 17 日）
6. 卒業感謝礼拝（3 月 14 日）

5 クリスマスコンサート（子育てひろば「はっぴい」と共催）

子育て家族及び地域住民を対象としたクリスマスコンサートを計画し実施する。

6 チャイルド・ファンド・ジャパンの里親支援と全国の児童福祉施設への支援

チャペルアワーとクリスマス礼拝で捧げられた献金を上記の活動の支援に充てる。

7 新入生研修会

入学後間もない時期に研修会を実施する。講演コンサートとグループ別活動などを通して、二年間の学びの礎を築く。

8 和泉クリスチャン・フェローシップ (I. C. F)

聖書の学びを中心にして、学生相互の交流と学生と教職員の交流を深める。

9 学生聖歌隊

定期的に練習しチャペルアワー、学内諸行事にて奉仕する。（指導者・山本美貴子）

10 「宗教部便り」の発行

宗教活動の報告、計画等の伝道のための文章などを載せた機関誌を発行する。

11 教会紹介

近隣教会及び教職員の所属教会を紹介する。また、「キリスト教概論」「キリスト教倫理」の授業と連携して、学生の教会出席を奨励する。

4 2012 年度の重点課題

1 チャペルアワーの充実

チャペルアワーの出席者を増やすことを目指し、出席しやすい雰囲気を作り参加呼びかけを積極的に行う。学生の出席を促すことを目的として、カルテファイルを活用しチャペルアワーを通じた学びの蓄積を一人一人が記録として残す。

2 学生のキリスト教活動の活発化

学生の「チャペル委員」には、連絡・情報伝達体制を整理し、キリスト教活動での確実なそれぞれの役割遂行を図る。また、I. C. F では聖書の学び、学生聖歌隊では讃美によって、キリスト教活動を通じた繋がりを構築し、活動を活発化させる。

3 ハンドベルの演奏活動の支援

授業科目「ハンドベル」が、学内での演奏機会を増やすとともに、学外からの依頼演奏も開始できるように支援する。そのための科目担当者との連携を強化する。

3月5日版 2012年度 宗教部カレンダー <敬称略>

月	日	曜	特別礼拝 その他予定	お 話	司 会	奏 楽	讃美歌 幼児さんびか	ハ ル	聖 歌 隊	メ モ	備 考（学事予定他）
3	30	金	2年始業礼拝	*	横川剛毅	山本美貴子				2年生向け宗教部オリエンテーション	
4	2	月						●	●	（入学式）	
4	3	火								1年生向け宗教部オリエンテーション	
4	4	水								専攻科オリエンテーション	
4	7	土	新入生研修会							岩渕まこと 氏 講演コンサート 開会、G別活動 閉会礼拝	
4	9	月	イースター礼拝	須田 拓	横川剛毅	石井三枝子		●	●	外部講師	
4	16	月		坂根彩音	横川剛毅	石井三枝子				外部講師	
4	18	水	ウェルカムパーティー	*	*	*					
4	23	月	創立記念礼拝	深町正信	伊藤忠彦	石井三枝子		●	●	理事長	
5	7	月		山本美貴子	横川剛毅	石井三枝子					避難訓練（5/7） 2年実習中（5/7～26）
5	14	月		伊藤忠彦	横川剛毅	石井三枝子					2年実習中
5	21	月		木村治男	横川剛毅	石井三枝子				外部講師	2年実習中
5	28	月	ペンテコステ礼拝	辻川篤	山本美貴子	武石宣子				外部講師	
6	4	月		長山篤子	松浦浩樹	石井三枝子				特任教授	
6	11	月		中西理恵	伊藤忠彦	山本美貴子				外部講師	専攻科実習中（6/11～19）
6	18	月		鈴木敏彦	片山知子	山本美貴子					専攻科実習中、2年実習中（6/18～7/7）
6	25	月		潮田健治	山本正司	石井三枝子				外部講師	2年実習中
7	2	月		大三島義孝	土橋正文	石井三枝子				外部講師	2年実習中
7	9	月		櫻井奈津子	鈴木敏彦	山本美貴子					
7	16	月		横川剛毅	山本正司	山本美貴子				外部講師	海の日 授業日
7	23	月		伊藤忠彦	山本美貴子	石井三枝子		●	●		
夏期休暇											
8	31	金	専攻科始業礼拝	*	山本正司	専攻科学生					専攻科オリエン
9	19	水	1年始業礼拝	*	横川剛毅	山本美貴子					1年後期オリエン、2年実習中（9/18～10/3）
10	4	木	2年始業礼拝	*	横川剛毅	山本美貴子					2年後期オリエン
10	8	月		伊藤忠彦	横川剛毅	石井三枝子					体育の日 月曜日分授業日
10	15	月		片山知子	櫻井奈津子	井狩芳子					
10	22	月		井狩芳子	山本正司	山本美貴子					
11	5	月	召天者記念礼拝	伊藤忠彦	横川剛毅	石井三枝子		●	●		学園祭週間（10/26～29） 学園祭（10/27～28）
11	12	月		武石宣子	佐藤守男	石井三枝子					専攻科実習中
11	19	月		佐藤守男	横川剛毅	石井三枝子					専攻科実習中
11	26	月	ツリー点火祭 アドベント礼拝①	横川剛毅	チャペル委員	山本美貴子		●	●		専攻科実習中
12	3	月	アドベント礼拝②	福永典子	山本美貴子	石井三枝子				外部講師	専攻科実習中
12	8	土	はっぴい クリスマスコンサート	*	学生	石井三枝子		●	●		
12	10	月	アドベント礼拝③	長山篤子	吉田耕也	石井三枝子				特任教授	
12	17	月	クリスマス礼拝	鈴木宏子	横川剛毅	石井三枝子		●	●	外部講師	
冬期休暇											
1	7	月		松浦浩樹	横川剛毅	山本美貴子					
1	21	月		横山望	深町和哉	山本美貴子				外部講師	
1	28	月		伊藤忠彦	山本正司	石井三枝子					
3	14	木	卒業・修了感謝礼拝	深町正信	伊藤忠彦	石井三枝子		●	●	理事長	
3	15	金	（卒業・修了式）	*	*	*		●	●		

5. 研 究 活 動

杉 山 佳 子 特任教授

【研究課題】

「子育て家族の支援とソーシャルワーク」

「認知症高齢者の支援方法について」

【教育課題】

保育士養成教育における相談援助

【学会参加予定】

日本介護福祉学会

日本社会福祉学会

日本社会病理学会

日本ソーシャルワーカー協会

【社会的活動】

全国社会福祉協議会・全国保育士会主催 主任保育士特別講座 講師

新潟県保育士会主催 パワーアップセミナー 講師

豊島区立東部子ども家庭支援センター 専門相談員

社会福祉法人基督教児童福祉会バット博士記念ホーム 監事

社会福祉法人ベタニヤホーム 評議員

長 山 篤 子 特任教授

[研究課題]

- ・キリスト教保育現状調査
- ・キリスト教保育現場実態調査、特に保育者の研修
- ・幼児の思いやりを育む保育の研究
- ・幼児と絵本の関わりについて
- ・子育て支援のあり方について

[教育課題]

- ・学生に対する授業態度に対する検討
- ・保育現場、子ども、保護者、保育者についての理解とその伝え方の検討

[学会、研修会出席予定]

- ・日本保育学会
- ・思いやり研究会
- ・地域研修会
- ・全国絵本セミナー講師
- ・埼玉地区保育者講師

[社会貢献]

- ・日本キリスト教書販文庫選定委員

井 狩 芳 子 教授

【研究課題】

①保育園児と幼稚園児の「あそび・生活リズム・基本的生活習慣」の獲得プロセスに関する研究。特に、親の養育態度や環境と生活リズムの形成について検討する。

＊5年間の継続研究を終了したので、研究全体の成果を検証したい。

＊協力園（予定）：大宝保育園（茨城県）、ナザレ幼稚園（神奈川県）、他

【教育課題】

①「保育内容『健康』」：ア、1年生の履修科目であるので、特に前期履修学生に対しては興味喚起のため、トピックスを多く提示する。ィ、学んでほしい内容と学生が理解出来る内容の調整をしながら資料等の工夫を重ねる。ウ、各回の授業開始時と終了時にキーワードの確認・ノート記入や注意喚起等を勧め、学生の知識の定着をはかる。

②「乳幼児体育」：「保育現場における運動あそびの指導」は、体育専攻の指導者が行うケースが多いが、「保育者自らが、いつでも・どこでも、気軽に運動あそびの指導が出来る事」を目指し、引き続き「実践と理論に強い保育者」を育てる授業を展開していく。授業は、前半に乳児対象・後半は幼児対象とし、仕上げとして、部分指導案や簡単な年間プログラム作成まで視野に入れた指導をおこなう。また、日本発育発達学会が2009年度に設けた「認定資格『幼少年体育指導士』」の講習内容も積極的に取り入れたい。

③「体育（実技）」：年間を通し、保育者に必要な体力の獲得を意識的に勧める。併せて、体力の基本となる、自分の日常生活を振り返り、自己課題をもつように勧める。また、引き続き、体育実技担当者全員で、学生に興味を喚起する教材の検討をすすめ、また、恵まれた教育環境（体育館・戸外）を十分に生かす授業内容を計画したい。

「体育（理論）」：授業回数が少ない中、現代健康課題・健康観を知り、学生自身の一生涯に生かすことのできる内容を絞り込んで提供する。

【社会活動】

- ・ 「幼少年体育指導士（日本発育発達学会認定資格）」認定講座実行委員会委員
- ・ 神奈川県相模原市男女協同参画課諮問委員会会長
- ・ 「子どものからだと心連絡会議」全国委員
- ・ NPO法人 セルフケア総合研究所 理事
- ・ 社会福祉法人 歩育の会 理事

【学会参加予定】

- ・ 日本保育学会（5月）
- ・ 日本小児保健学会（10月）
- ・ 子どものからだと心・全国研究会議（12月）
- ・ 日本発育発達学会（3月）

佐 藤 守 男 教授

- 【研究課題】
- ・ 欧米の美術館・画廊の調査研究
 - ・ 彫刻等の表現の可能性について

- 【教育課題】
- ・ 造形表現等の教材研究

【学会参加予定】 個展、グループ展、日本美術家連盟、日本臨床死生学会 他

武 石 宣 子 教授

- 【研究課題】
- ・ リトミック教育に関する研究
 - ・ 音楽療法に関する研究
 - ・ ソルフェージュの研究
 - ・ 即興演奏の研究
 - ・ プラスティック・アニメの研究
 - ・ 身体表現を通じた音楽理解への可能性
 - ・ カリキュラム研究《リトミック・器楽（ピアノ）・保育内容（表現）》
 - ・ レクリエーションの理論と実践に関する研究
- 【教育課題】
- ・ リトミック教育の創造的遊びへのアプローチ
 - ・ 器楽（ピアノ）の授業の充実
 - ・ 親子リトミックの指導方法の充実
 - ・ 教育法：《ダルクローズ・リトミック夏季セミナー（名古屋音楽学校）・ダルクローズ・リトミック春季セミナー（リズムの森）》
- 【所属学会等】

- 大学教育学会 ○日本保育学会 ○日本音楽教育学会
- 日本ダルクローズ音楽教育学会 ○大学音楽教育学会
- 日本乳幼児教育学会 ○日本キリスト教社会福祉学会
- 初年次教育学会 ○日本レジャー・レクリエーション学会
- 全日本ピアノ指導者協会 ○アクティビティ・サービス協議会
- 幼児音楽研究会 ○学校伝道研究会

大 下 聖 治 准教授

- 【研究課題】
- ① 運動学習に ICT 教育を活用する試み
 - ② 保育職を志す学生を対象とした体力評価と体力づくりプログラム
 - ③ 虚弱高齢者を対象とした介護予防運動の検討
 - ④ 運動技術の方法的運動系列に関する検討
 - ⑤ 指導技術(コーチング)の習得に関する研究
- 【教育課題】
- ① 乳幼児期に効果的な運動・遊びについて、学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る
 - ② 保育の現場で必要と思われる体力的要素の養成とサポート
 - ③ 子どもの遊びや運動に積極的に関わり、工夫できる保育者の育成
 - ④ 社会人として、また保育者として大切な心的態度やマナーについて
 - ⑤ 学生生活の充実と課外活動支援、および進路支援について

【学会参加予定】

- ① 日本体育学会
- ② 日本体力医学会
- ③ 日本公衆衛生学会

【社会的活動】

- ① NPO 法人「世界健康・スポーツ振興協会」理事
介護予防の運動処方とシステム開発に関する研究・事業推進

片 山 知 子 准教授

【研究課題】 1) キリスト教に基づく保育の考察

- ①キリスト教保育の実践研究
 - ②保育者養成におけるキリスト教保育授業の構築
 - ③ 1960年代前後におけるキリスト教保育の歩み（継続）
- 2) 持続可能な発展（ESD）の幼児教育（共同研究に参加）
- 3) 子育て支援の取り組みと展望について

【教育課題】 1) 担当各教科の指導内容の工夫と充実

- 2) 保育者をめざす学生が建学の精神を思い起こしながら専門職への学びができるよう援助する
- 3) CD センターの活用で専門職教育の充実を図る

【学会参加予定】 日本保育学会

（東京家政大学：自主シンポジウム参加、研究論文発表）

OMEP 日本委員会総会

（OMEP 日本委員会 APR フォーラム準備委員）

キリスト教教育学会

キリスト教保育連盟夏期講習会

（キリスト教保育連盟常任理事・講習会委員長）

子どもと礼拝研究会

【地域貢献】 相模原市次世代育成支援行動計画推進会議委員

近隣地域高校での模擬授業

横浜市幼稚園協会加盟園での研修会協力

キリスト教保育連盟神奈川部会加盟園での研修会協力

櫻 井 奈津子 准教授

【研究課題】・里親等への支援

「養育里親」「小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）」を対象とした支援活動において、児童相談所や児童福祉施設のワーカーの資質として求められているものを明らかにしながら、里親支援に携わるワーカーの養成についての研究活動を行う。

- ・要保護児童への自立支援

NPO神奈川フォスターケアサポートプロジェクトによる里子の自立支援事業、里親里子の交流事業等の活動への参加を通し、児童養護施設入所児童、里親・ファミリーホーム委託児童等との関わりをもちながら、自立支援への研究を行う。

【教育課題】・担当科目（児童家庭福祉・社会的養護の原理・社会的養護の内容・子どもと暮らし）の内容充実。

学生にとって具体的に理解しやすい教材（ビデオ、資料等）の活用とタイムリーな話題の提供を通して、子どもを取り巻く社会的環境や家族の問題について理解を促してゆく。

「児童家庭福祉」では、子どもやその家族に対する理解と、子どもの権利擁護の視点からの、社会福祉サービスのあり方について学びを深め、学生が「援助者」として望ましい子ども観を確立していられるよう働きかけてゆく。

「社会的養護の原理」では、「子どもが安心して安全な家庭生活を送る権利」を保障するための社会的養護の一環として、入所型の児童福祉施設が果たす役割を理解し、施設実習への導入をふまえた授業展開を行う。また相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「社会的養護の内容」では、子どもと生活を共にし、生活の中での援助をめざす保育者としての子ども理解を促し、併せて子どもにとってより望ましいケアのあり方を、グループ討論やグループでの作業を通して学び、保育実習Ⅰ（児童福祉施設）への事前学習や事後の振り返りと連動させて授業を展開する。

さらに、相模原市内在住の養育里親の協力を得て、要保護児童の養育にあたる現場の声を伝えていく。

「子どもと暮らし」では、子どもが日々の生活、保育を体験することによって育まれる社会性を意識しながら、保育場面での展開（指導や援助）を考えて、実践的な学びを深める。選択科目なので、履修者の状況により授業内容に柔軟性をもたせたい。

- ・実習指導の充実。

実習体験を通して、保育者としての基本的な態度、姿勢を身につけ、現場における保育者の役割・責任を効果的に学べるよう、実習前の準備や実習後のフォローを丁寧に行い、卒業後の進路支援につなげてゆく。

担当グループの学生とのコミュニケーションを図り、とくに単位修得が困難な学生への個別対応を丁寧に行う。

- ・教科書等教材作成

社会的養護、児童家庭福祉分野において、簡潔でわかりやすい教材作成を行う。

【社会活動】・児童養護施設、神奈川県内里親会等との連携による里親へのスーパーバイズ活動を継続する。

- ・NPO法人神奈川フォスターケアサポートプロジェクトへの協力

- ・相模原市における児童福祉活動への協力

相模原市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員

同 児童部会委員（部会長）

同 児童虐待検証部会委員（職務代理）

・ 第三者委員活動

社会福祉法人あすはの会 在宅福祉サービス部みしょう
社会福祉法人恩賜財団神奈川同胞援護会
母子生活支援施設グリーンヒル相模原

- 【参加予定学会】 日本子ども家庭福祉学会（大阪）
日本子ども虐待防止学会（高知）
日本児童養護実践学会（東京）

鈴木 敏彦 准教授

- 【研究課題】 ・ 社会保障・社会福祉と住宅問題の関係に関する社会史研究
・ 福祉サービス利用者の権利擁護とソーシャルワークに関する研究
- 【教育課題】 ・ 短期大学における入学前教育・初年次教育のあり方について
・ 短期大学における退学防止に関する方策について
・ 児童福祉専門職養成における社会福祉・ソーシャルワーク教育のあり方について
- 【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、社会政策学会、社会事業史学会、
日本キリスト教社会福祉学会、日本グループホーム学会、障害学会、
日本居住福祉学会、日本住宅会議、日本社会福祉教育学会、大学教育学会、
初年次教育学会、東洋大学社会福祉学会、淑徳大学社会福祉学会、
成年後見法学会 他

相馬 靖明 准教授

【研究課題】

1. 多くの地域で保幼共通カリキュラムや小学校スタートカリキュラムが作成されている。本研究では、接続期の強調による学びの矮小化に対して、連携の他方の柱である子ども同士や教職員間の交流、さらには保護者にとっての視点からのとらえ直しが必要と考え、子ども同士の交流活動をデザインする際の視点を明らかにする。

2. 保育者の成長契機の研究

保育者は自らの成長につながる学びをどのように構築しているのかについて、聞き取り調査をもとに考察している。今年度は、上司による直接的な支援と保護者からの間接的な支援との関係について、研究協力者への聞き取り調査を行う。

【教育課題】

1. 授業実践を通して個々の学生の理解を深めること
2. 本学の教育課程における学生の育ち・学びの姿をとらえた実践ができるようになること

【参加予定学会】

1. 日本保育学会（2012年5月）ポスター発表予定
2. 子どもと保育実践研究全国大会（2012年8月）
3. 全国保育士養成協議会研究大会（2012年9月）
4. 日本教育工学会全国大会（2012年9月）

【社会活動】

1. 子どもと保育総合研究所（研究大会・セミナーなどの企画運営）
2. 全国青年保育者会議（日本保育協会）分科会講師（2012年9月）

戸塚恵子 准教授

- 【研究課題】 ・ 保育現場の健康課題における保育者の対応について
・ 子育て支援における地域の人材の活用と育成について
・ 気になる子どもへの支援と医療・保健・福祉の連携について
- 【教育課題】 ・ 現場で的確に判断し対応できる医療や保健、看護の知識と技術を持つ保育者の育成
・ 母子や親子など家族支援の視点を持ち、対応できる保育者の育成
・ 子どもを取り巻く課題について、アセスメントし、関係機関と連携しながら課題の軽減や解決に導くことができる保育者の育成
- 【参加予定学会】 日本公衆衛生学会、日本小児保健学会、日本介護福祉学会、
日本自立支援学会、日本保育園保健学会

平田美智子 准教授

- 【研究課題】 ・ 地域子育て支援拠点における母親対象に子育てサークルと育児期不安に関する量的・質的調査（個人研究）
・ 里親支援機関に関する調査・研究（厚労省科学研究の分担研究者）
・ 韓国の里親支援機関に関する調査・研究
・ 各国のソーシャルワーカーの資格に関する調査・研究（日本社会福祉士会の滞日外国人支援・国際委員会で共同研究）
・ 災害対策とソーシャルワークに関する研究（社会福祉専門職団体協議会の国際委員会とアジア太平洋地域会議で共同研究）
・ 在日外国人支援の研修（日本社会福祉士会の滞日外国人支援・国際委員会と共同で）
・ 子育て支援者のネットワーク作りに関する実践と研究
- 【教育課題】 ・ 児童家庭支援を実践できる保育者の養成
・ 子育て支援者となる学生・地域ボランティアの育成
・ 学生の児童虐待防止オレンジリボン・キャンペーン運動の推進
・ 子どもの権利を守れる大人・保育者の育成
・ 学生のボランティア活動支援（障がい児、障がい者、児童養護施設他）
- 【学会参加予定】 ・ 日本保育学会（5月、東京家政大学）（ポスター発表予定）
・ 日本社会福祉士学会（6月、神戸）
・ IFSW（国際ソーシャルワーカー連盟）世界会議・総会（7月6,7日総会、8-12日世界会議、ストックホルム、スウェーデン）
・ 日本社会福祉学会（10月）

- 【地域貢献】
 - ・相模原市子ども家庭相談課と協働で児童虐待防止推進月間（11月）に協力
 - ・相模原市の障がい者施設と協働で学生・障がい者の交流（松が丘園とパン販売）
 - ・相模原中央支援学校と学生の交流事業
 - ・相模原市麻溝公民館事業への学生の参加
 - ・横浜市の子育て支援拠点事業（NPO法人グリーンママ）支援（専門相談員）
- 【社会的活動】
 - ・社団法人日本社会福祉士会役員（本部理事・滞日外国人支援・国際委員長）として
 - ・国際ソーシャルワーカー連盟（IFSW）アジア・太平洋地域財務担当
 - ・地域子育て支援拠点事業（横浜市NPO法人グリーンママ）理事・専門相談員
 - ・「養子と里親を考える会」（研究会）理事
 - ・座間市地域包括支援センター・地域密着型運営協議会及び地域密着型サービス運営委員会 委員（学識経験者）
 - ・大和市男女共同参画策定委員会委員

松 浦 浩 樹 准教授

【研究活動】

1. 「子どもの遊びの充実と中心性について」（その3）継続研究
2. 幼児期における両義的認識の発達過程について
 - ＊上記1.2は、特に2012年度は「相互性」を基本概念において研究
3. キリスト教保育の現状と課題
4. 家庭生活・文化の変遷と保育における遊びの必然性とその質の研究（～2010年まで）
5. 保育現場の事例研究の方法と子ども理解の循環的理解過程の研究（～随時継続）
6. 子育て支援における地域貢献の意味とその質に関する研究（～2012年まで）
7. 境界性喪失と保育者養成・新任教育の課題（～2015）、保育就業力育成プログラムの現状と課題

上記テーマに基づき、協力園（幼稚園・保育園）での観察データ、映像記録、園内研究での貢献を軸に、保育実践に寄与する研究を目指す。またテーマ6、7に関して、学内で関与する学生、保護者（親子）との実際的なかかわりの中から、現状と課題を明らかにする。

【教育課題】

- ・ 短大における学び・保育者への学びについての態度形成について、新入生に対してグループ指導並びに「教育原理」の授業の中で実践していくこと。また保育就業力を育成するために、保育現場のニーズに相関させるプログラムの開発と工夫
- ・ カルテファイルシステムと「キャリアデザインA.B」、さらにグループアドバイザー指導を連動した教育支援体制の確立
- ・ 「キリスト教保育」、「保育内容 人間関係」の授業内容の充実にあたり、上記の研究における実際的なデータ（事例・ビデオ）を学生に還元し、人間現象を考察する力を促進する。
- ・ 担任グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援など個別指導について

【参加予定学会等】

- ・ 日本保育学会
- ・ 日本乳幼児教育学会
- ・ 日本キリスト教教育学会
- ・ 子どもと保育総合研究所・所員研究会
- ・ OMEP（世界幼児教育機構）日本委員会 国際共同研究
- ・ 思いやり研究会
- ・ キリスト教保育連盟 研究委員会
保育実践研究委員会・委員長
- ・ 学校法人 愛育学園 愛育養護学校 学内研究会

【地域貢献】

- ・ 子育てサロン「はっぴい」の運営 子育て QA
- ・ キリスト教保育連盟・部会保育者研修会・講師
- ・ 幼稚園協会 園内研究の継続的な観察と研究指導
- ・ 幼稚園・保育所における「保護者会」(父親の会)などの講師

【その他委員会等】

- ・ 子育て支援プログラム運営委員会の委員長として、委員会とサロンの運営と充実に向けて
- ・ 「保育就業力支援プログラム」の開発担当者として、GP作業委員（新設CD委員）にて、今後の運営と改善を執り行う。
- ・ キャリアデザインセンター（CDC）の有効活用とプログラム、及び地域貢献の新たな可能性を探る（子育て講演会等）
- ・ 教務委員として、学生の学習支援に立ったカリキュラムの見直しと検討
(入学前教育を視野に入れ、アドミッションポリシーに根差した総合的・系統的学び)

矢 野 由佳子 准教授

- 【研究課題】 ・ 乳幼児の発達と心理臨床に関する文献調査
・ 保育者のメンタルヘルスに関する調査研究
- 【教育課題】 ・ 子どもや保護者の心理に深い理解を持つ保育者の育成
・ 心身の健康を管理できる保育者の育成
- 【学会参加予定】 日本発達心理学会、日本心理臨床学会 他

山 本 美貴子 准教授

- 【研究課題】 ・ 自発的な遊びの中に見られる子どものリズムカルな言葉・音・動きによるやりとりと遊びの展開に関する研究
・ 「保育の中での音楽に関わる授業研究」
2008年度1年生授業内で実施した「保育現場での音楽活動」「こどもと音楽・表現」についての学生の意識調査結果の分析・考察を通して、学生がどのように子どもの表現の概念を学ぶかを探る

- ・ 子どもの表現を育むため「保育者研修」について
実際の園内研修での体験や振り返りを軸に、子どもとの毎日の生活や遊びの中の音楽や表現の魅力に気づき、さらに広げたり深めたりするための保育者自身の感性・表現力・レパートリーや援助技術の向上を目指す研修方法・内容を探る

【教育課題】

- ・ 「保育音楽」の授業内容と方法について
前期 子どもの遊び歌・ゲームなどの演習と、後期 遊び歌の創作演習課題とのより密接で効果的な展開を探る。
- ・ 「子どもと表現Ⅰ」の授業内容と方法について
この数年、非常勤担当教員との共通シラバスにより子どもの表現行動・保育内容に即した総合的な表現について学習・体験する授業を展開、一定の効果を得ている。更に各教員の反省・意見を集約、音楽・表現に関する教育内容を精査・工夫してゆきたい。2012年度は各クラスのより円滑で充実した授業実践を目指し、課題設定・教材準備の方法を改善する予定。
- ・ 「聖歌隊」活動内容と選曲・指導方法について
2011年度はここ数年の中で最も多くの隊員を得られ、声部の編成なども工夫できた。この機会を利用して校歌の録音も行ったので、学生全体の校歌の歌唱の一助として活用していきたい。宗教センター移転に伴う練習・活動の見直しや、宗教部とのより魅力的な連携を目指したい。
- ・ 新担当科目「保育・教育実践演習」の授業内容と方法について
2011年度の反省点を明確にし、就業力育成プログラムとの連携を密に、担当教員が協力して充実した教育プログラムの推進を図りたい。
- ・ グループ運営の充実と 個別学生指導について
特にグループ別実習授業の充実を図り、現行のグループ用に作成している補助教材（プリント・学習段階の設定）の刷新を予定。より学生の能力や現状に合う授業展開を探る

【学会参加予定】 日本保育学会、日本音楽教育学会、全日本音楽教育研究会

【研究会参加予定】 スペース新社主催 保育研究会

横 川 剛 毅 准教授

- 【研究課題】
- ・ コモンセンス・ペアレンティングの施設等での活用について
 - ・ コミュニケーションに課題のある知的障がいのある人の意思を引き出す関わりについて

- 【教育課題】
- ・ 対応が難しい子への適切に向き合うことができる保育者・支援者の養成
 - ・ 障がいに関する正しい知識をもち、実践できる保育者・支援者の育成

【学会参加予定】 日本社会福祉学会、日本キリスト教社会福祉学会、日本地域福祉学会

河 合 高 鋭 専任講師

【研究課題】

- ① 保育の専門性における保育者意識についての研究
- ② インクルーシブ保育と保育原理についての研究
- ③ 自閉症幼児に関する保護者支援等に関する研究

【教育課題】

- 担当科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」「保育課程論」の授業研究
- 学生個々が理解を深め、基本的な技術の習得が成されるよう、一層の授業の充実と工夫を図る。
- 「保育原理」「乳児保育」授業内容の改善
- 担任グループの学生の学生生活の充実と生活技術・保育技術習得の支援
- 実習指導において保育者として大切な心的態度やマナーについて

【学会参加予定】

- 日本保育学会
- 日本特殊教育学会
- 日本 LD 学会
- 日本児童学会
- 日本発達障害学会
- 日本人間関係学会
- 日本自閉症スペクトラム学会

【社会的活動】

- 社会福祉法人朝日新聞厚生文化事業団自閉症カンファレンス日本 サポートスタッフ
- 日本自閉症協会神奈川県支部自閉症児・者親の会大和市部勉強会 講師
- 東京都葛飾区私立幼稚園連合会 葛飾区私立幼稚園教育実践研究会 講師
- 日本人間関係学会 事務局幹事

佐久間 志保子 専任講師

【研究活動】

- ・ 在宅介護における介護福祉士の役割
- ・ 災害時における感染症について
- ・ 災害時の福祉避難所のあり方
- ・ 障害者の在宅生活の支援のあり方
- ・ 成年被後見人の自己決定について

【学会参加予定】

- ・ 日本在宅ケア学会、日本社会福祉学会、日本地域看護学会、日本介護福祉教育学会、日本環境感染学会、日本老年社会科学会

佐 藤 美 紀 助教

【研究活動】

- ・ 高齢者福祉施設における移動・移乗に関する介護職員の意識調査

【学会参加予定】

- ・ 日本介護福祉学会

山 本 正 司 助教

【研究活動】

- (1) 『現代の貧困－住宅と貧困－』『寿地区の成り立ち・過去から現在まで－調査研究－』
共同研究 研究主任 東洋大学名誉教授 天野マキ（編著）書籍発刊予定
共同研究者 本学 准教授 鈴木敏彦
なお、本研究は、2011 年度実施を継続します。
- (2) オーストラリアにおける社会保障制度－高齢者施策を中心に－
2011 年 11 月、シドニーにおける高齢者施設視察の報告および生活保障制度について－
【学会参加予定】 ・社会政策学会、社会保障法学会、社会事業史学会

渡 邊 瑞 穂 助教

【研究課題】

- ・ 児童養護施設職員の職員養成に関する研究
- ・ 施設保育士に求められるソーシャルワーク機能について

【教育課題】

- ・ 実習・ボランティアセンター所属教員としての職務内容の充実、学生支援

【学会参加予定】

- ・ 日本子ども虐待防止学会

6. 委員会活動

教務委員会（委員長 武石宣子）

1. 教育の内容

（1）教育課程について

- ①教科に関する科目と教職に関する科目の専任教員の配置
- ②教員人事
- ③休業日を授業を行う日に変更
- ④土曜日の行事・授業の行事・補講日
- ⑤新設授業教科目について
- ⑥インターナショナル・フィールドワーク

（2）FD・SDの充実

- ①2011年度の自己点検・評価報告書の作成
- ②学生による授業評価の改善及び公表のあり方
- ③教員懇談会・教職員懇談会の開催
- ④全教職員参加のFD・SD研修会開催

（3）授業環境改革の更なる検討

（4）教育交流提携高の高校生へのサービスの見直し

- ①聴講生受け入れについて
- ②市内高校長との教育懇談会開催

（5）時間割の工夫

- ①月曜日の授業は専任教員中心
- ②2年生科目：前期13回・14回・15回分の授業日の確保（5時限目に導入）
- ③専任教員については研究日の他に授業準備日として、授業のない日を設定

2. 教育の環境整備

- （1）教室の広さ、数、運動施設、校庭、畑等の有効な活用
- （2）教育用機器備品についての整備と検討

3. 教育目標の達成度と教育効果

- （1）教育目標の達成に関する評価の方法について
- （2）実習や器楽（ピアノ）も含めた評価方法の検討
- （3）退学者、休学者の近年の傾向と背景を把握し、教育指導への反映と検討
- （4）卒業生や、専門就職先からの卒業生に対する評価

4. 学生支援

- （1）障がいその他の特別な配慮を要する学生の勉学への支援を検討
- （2）入学前教育の充実（入学直後の初年次教育含む）
 - ①2011年度に行った入学前教育(4回開催)の継続（12月・1月・2月・3月）
 - ②入学前の無料ピアノレッスン（3回開催）の継続（2月：2回、3月：1回）
- （3）保育士・幼免以外の資格取得の支援

- ①レクリエーション・インストラクター取得支援
- ②おもちゃインストラクター取得支援
- ③その他（ホームヘルパー・ガイドヘルパー等）の資格取得の検討
- （３）入学時や後期開始前に実施しているガイダンスの充実と工夫
- （４）履修チェック方法の活用
- ５．卒業生への再教育支援
 - （１）卒業生に対する研修等の再教育の機会を提供することについての検討
 - （２）本学での夏期リカレント講座及びその他の関連講座の開催について検討
 - ①本学独自で夏期リカレント講座開催
 - ②幼稚園協会・子どもと保育総合研究所主催セミナー等に協力
- ６．教員の交流と研究活動の支援
 - （１）全教員打ち合わせ会及び授業内調整会の有効性を高める工夫の検討
 - （２）教育指導体制に関し教員間の交流や授業参観の導入
 - （３）将来計画のための教員懇談会の企画・実施
 - （４）教員の研究活動の推進及び和泉特別研究費の使用方法的検討
 - （５）文部科学省特色ＧＰ・現代ＧＰ・学生支援推進プログラム、科研費の外部からの研究資金調達
の積極的支援
 - （６）教員の教育、研究並びに社会的な活動の適正な推進の支援
- ７．保護者（保証人）会について
 - （１）入学式後の保護者（保証人）会の開催
 - （２）年度途中での保護者（保証人）会の開催に検討
 - （３）保護者（保証人）への成績の報告
- ８．情報公開について
 - （１）自己点検・評価報告書の開示
 - （２）教員情報の開示

学生委員会（委員長 佐藤 守男）

- （１）．学資支援（奨学金制度）の充実を図る。
- （２）．学生支援におけるグループ・アドバイザーとの連携強化を図る。
- （３）．キャリアデザインＡ（学生生活支援）の充実を図る。
- （４）．就職意識の啓発ときめ細やかな就職相談、キャリアデザインＢ（進路支援）の充実を図る。
- （５）．進路支援センターの充実と就職率・就業定着率の向上を図る。
- （６）．学友会活動（いずみ祭・新入生歓迎会等）を支援する。
- （７）．学生のマナー向上の取り組みを学友会とともに進める。
- （８）．学生の課外活動を支援する。
- （９）．健康管理センターを充実させる。

図書委員会（館長 井狩 芳子）

《基本戦略：ラーニング・コモンズの視点から、本学図書館の使命を探る》

1. 特設展示の充実（新着図書紹介・各種特集図書の別置・パネル展示など）
2. 蔵書の充実（2012年重点項目：旅行ガイド関連資料）
3. 図書館利用者サービスの向上（視聴覚資料の検索の電子化など）
4. 図書館利用者のモラル向上を促すための環境整備（掲示・声かけ・他媒体利用検討）
5. 図書館ホームページの拡充（図書館報の発展的解消としての新規項目）
6. 図書館主催の講習会の検討（パネルシアターの会の実施・他）
7. 研究紀要発行に関する検討（規約見直し・確認シートの作成・版等）
8. 研究紀要の電子化の検討
9. 入学前教育への対応（開催日の開館、入学予定者への図書の貸出など）
10. 地域への対応（子育てセンター利用者などの利用検討）

入試広報委員会（部長 鈴木 敏彦）

1. 広報関係
 - ①学園報の発行
 - ②学校案内冊子の作成及び充実のための検討
 - ③進学相談会等（高校教員向け、高校福祉・家庭科担当教員向け、神奈川県私立短期大学協会主催相談会）およびオープンキャンパスの開催及び充実のための検討
 - ④高等学校進路説明会（進学説明・模擬授業）の開催及び充実のための検討
 - ⑤公開講座（市民大学等）の開催及び充実のための検討
 - ⑥和泉プレカレッジ（高校生向け模擬授業）の開催及び充実のための検討
 - ⑦広報戦略の検討
 - ⑧教職員セミナーの開催
 - ⑨同窓会との交流
 - ⑩その他の広報活動の遂行
2. 入試関係
 - ①各入試（AO入試、指定校推薦、公募推薦、専門高校推薦、在学生・卒業生家族推薦、キリスト教者推薦、社会人特別選抜、一般）の公正かつ適正な実施
 - ②入試戦略（各入試の内容・方法の充実等）の検討
 - ③各大学の入試関係データ収集
 - ④その他の入試関係業務の遂行

実習・ボランティアセンター委員会（委員長 櫻井 奈津子）

1. 実習に関する支援
 - (1) 実習施設の選定・連絡・調整
 - ① 実習依頼・実習配属に関わる連絡・調整
 - ② 実習連絡会の実施（年3回）
 - ③ センター便り発行と実習先への送付（年1回）

- (2) 「保育実習指導Ⅰ」「保育実習指導Ⅱ」「教育実習指導」の計画・立案
 - ① 授業実施計画の立案
 - ② 外部講師による「実習特別講義」「マナー講座」の計画・実施
 - ③ 実習の事前・事後指導に関わる指導内容の検討及び科目担当者への教材・情報提供
- (3) 実習実施に関わる業務
 - ① 実習登録の受付と配属
 - ② 諸手続への支援（登録カード、実習生調書、腸内細菌検査、実習日誌、実習定期等）
 - ③ 実習巡回指導にかかわる連絡・調整。（巡回担当教員の配属、調整等）
- (4) 実習教材・関連資料等の作成及び保管
 - ① 「実習の手引き」の作成、配布
 - ② 実習記録（日誌）の作成、配布
 - ③ 実習関連資料の収集と学生への提供
- (5) 学生の個人情報（実習生調書、巡回指導記録、実習出席票・評価票等）の管理
- (6) インフルエンザ予防接種の実施
- (7) 必要に応じた学生への個別支援
- (8) その他の実習に関わる支援

2. ボランティア活動への支援

- (1) ボランティア募集に関する情報収集と学生への情報提供
- (2) 活動先との連絡・調整
- (3) 活動状況の把握
 - ① ボランティア活動届の受付
 - ② ボランティア活動状況の集計
- (4) ボランティア活動関連資料の収集と学生への提供
- (5) 「ボランティア活動の手引き」の作成、配布
- (6) その他のボランティア活動に関わる支援

3. 2012年度の重点課題

- (1) 学生の個別的な状況を配慮した実習実施への支援
 - ① 入学生の多様化、とくに健康面の課題を抱える学生の増加や学力差の拡大等を受け、実習実施・実習指導における学内コンセンサスの形成と、科目担当者との連携強化を図る。
 - ② 必要に応じて、学生相談室・保健室との連携を図り、個別的対応を要する学生の情報を、グループアドバイザーも含めて共有し、対応上のコンセンサスを得る。
- (2) 保育・教職実践演習（幼稚園）の科目担当者との連携を図り、実習教材の共有・キャリアカルテの活用をすすめる。
- (3) キャリアデザインセンターの活用をはかる。
- (4) 実習管理システムの改善に向けた取り組みを行う。
- (5) 学生の個人情報の管理と共に、緊急時の連絡・対応について検討する。

子育て支援プログラム運営委員会（委員長 松浦 浩樹）

1 子育てサひろば「はっぴい」の開催（年間10回＝4・8月を除く毎月、土曜日）

(1)子育て家族への支援

- ・子どもや保護者にとって安心できる安全な遊び場と、季節に応じたプログラムの提供
学生ボランティアを活用して、遊びの見守り（安全への配慮）を行い、楽しい企画（イベントタイム）を提供していく。
- ・必要に応じた相談活動の実施
教職員から保護者に働きかけることで、子育ての負担や悩みの軽減を図り、必要に応じて専門機関を紹介する。

(2)学生に実践的な学びの場を提供する

- ・在学生に呼びかけてボランティアスタッフを募り、学生が乳幼児と触れあいながら乳幼児の状況を知る、あるいは実際に関わる中で子どもを学ぶ機会を提供する。
- ・学生主体の企画（絵本・紙芝居・パネルシアター・手遊び・スタンプなど）の発表の機会を作り、学生の学習意欲の向上を図り、実践経験の機会を増やす。

(3)高校生への対応

- ・プレカレッジ、入学前教育プログラムの一環として、「はっぴい」の活用に協力する。

(4)卒業生との連携

- ・卒業生も参加しやすい雰囲気を作り、活動時のボランティアを積極的に受け入れる。

(5)「はっぴい」の周知活動

- ・本学のHPでの紹介の他、タウン誌等に記事掲載を依頼し、活動内容を広める。
- ・「はっぴい通信」の発行（年4回を予定）

(6)1年間の活動の振り返りと実態調査

- ・参加者の保護者に、実情と要望を探るためのアンケート調査を実施し、地域貢献の今後の在り方を模索する。
- ・ボランティアに参加した学生の現状や要望を探るための調査を実施し、今後の学習支援の方向性を探る。
- ・上記2つのアンケートを基に、はっぴいの活動を振り返りつつ、活動報告書、あるいは論文を作成し、紀要に掲載する。

(7)学生ボランティアの活動後の支援をバズセッション等のコミュニケーションの場で具体的に促進する。

2 子育てひろば(施設開放)：毎週木曜日の実施

- ・今年度試験的に木曜日を子育て中の親子にCDCを開放してきた。プログラムを超えて学生たちが自然に幼子やその保護者に関わる、あるいは積極的に関心を寄せている様子が多々見られた。保育就業力の根底を支える実践となっている。またこのような自然なかかわりを通じて、学生が保護者のニーズを直に感じとる機会ともなっていることの意義は大きい。特にCDCの保育環境・教材(玩具・絵本)の質の高さを、保護者が共感し、強い関心を示している姿を通じて、児童の「文化」を備える・伝えることの意味を、授業・講義を超越して、学生が体感していると思える。
- ・今後は、環境と教材の一層の充実と共に、「絵本・玩具 LIBRALY」として、親子に対して自由に絵本や玩具が貸出できるような場を設けたい。貸出することによる利用者の拡大、安定的利用を

図ることは、本校の地域貢献ともなると考える。

- 基本的には、相談に対してサポートィヴな姿勢を保ち、必要な情報提供（専門機関の紹介も含む）を行っていくことと、季節に応じた話題の提供を行う。
- 子育て講演会を企画し、子どもを遊ばせるだけではなく、保護者の実質的な悩みに向き合えるような講演者を招き、学生を巻き込みながら、大人の＜学び＞の場を提供する。

7. 広 報 活 動

(1) 製作・発行物

・ 入学案内書・出願書類一式	2012年	4月下旬発行予定
・ 特待生制度・奨学金リーフレット	2012年	4月下旬発行予定
・ 高校1,2年生向けリーフレット	2012年	4月下旬発行予定
・ 保護者向けリーフレット	2012年	4月下旬発行予定
・ オープンキャンパス告知ポスター	2012年	4月下旬配布予定
・ 首都圏高等学校送付入学案内書パック	2012年	5月下旬発送予定
・ izumi NEWS 13号	2012年	5月下旬発行予定
〃 14号	2012年	8月上旬発行予定
〃 15号	2012年	12月上旬発行予定
〃 16号	2013年	2月下旬発行予定
・ 受験生向けダイレクトメール①（外部制作）	2012年	7月上旬発送予定
・ 〃 ②（外部制作）	2012年	9月下旬 〃
・ 〃 ③（外部制作）	2012年	12月上旬 〃

(2) 主催型広報活動

- ・ 高等学校教員対象進学説明会
- ・ 保育・福祉担当教員懇談会
- ・ 和泉プレカレッジ
- ・ 市民大学（相模原市共催）
- ・ ホームカミングデイ（和泉福祉専門学校）
- ・ 教職員対象セミナー
- ・ オレンジリボンキャンペーン（相模原市共催）

・ オープンキャンパス

回	短期大学	
1	2012年 5月19日（土）	13：30～16：00
2	2012年 6月16日（土）	13：30～16：00
3	2012年 7月14日（土）	10：30～14：30
4	2012年 8月4日（土）	10：30～14：30
5	2012年 8月22日（水）	13：30～16：00
6	2012年 9月15日（土）	13：30～16：00
7	2013年 1月5日（土）	10：30～12：00
8	2013年 3月27日（水）	13：30～16：00

・個別相談会

回	短期大学	
1	2012 年 10 月 27 日 (土)	11 : 00～14 : 00
2	2012 年 10 月 28 日 (日)	11 : 00～14 : 00

(3) 参加型広報活動

- ・高等学校内ガイダンス・模擬授業
- ・進学相談会（神奈川県私立短期大学協会）
- ・進学相談会（会場形式）

和 泉 短 期 大 学

(1) 雑誌・交通広告等掲載・掲出

(2012 年度)

広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
ライセンスアカデミー	進路ナビ (インターネット商品)	1 年間
	大学・短大進路のてびき	4 月
日東システム開発	ベスト進学ネット (インターネット商品)	1 年間
ビー・プライム	デジタルパンフレット	1 年間
毎日コミュニケーションズ	マイナビ進学 (インターネット商品)	1 年間
リクルート	進学ネット (インターネット商品)	1 年間
	進学事典 (応援号)	1 月
	進学事典 (3・4 月)	3 月・4 月
	進学事典 (5・6 月)	5 月・6 月
キッズコーポレーション	「学校サイト」 (インターネット商品)	1 年間
	大学・短大カタログ	4 月
さんぼう	短期大学への進路	4 月
昭栄広報	進路ノート	4 月
進路情報ネットワーク	高校生のための進路BOOK	4 月
進路企画	説明会用ガイドブック	4 月
育伸	高校内ガイドブック	4 月
教育通信社	進路テキスト進学編	4 月
神奈川県私立短期大学協会	神奈川の私立短期大学	5 月
タウンニュース	暑中お見舞い号・名刺広告	7 月
	元旦号・名刺広告	1 月
神奈川新聞社	迎春名刺広告	1 月
ティーディーエス	ipad 大学紹介	6 月
広告代理店名	掲 載 紙 等	時 期
ニューアド社	淵野辺駅看板	1 年間
桜栄社	相模大野駅看板	1 年間
神奈川中央交通	バス停正式名称保守管理	1 年間
廣告社	小田急線まど上連合広告	1 年間
	J R 横浜線まど上連合広告	
案内標識推進機構	案内標識塔国道 16 号線	1 年間

8. 財 務 関 係

2012(平成24)年度 事業計画(案) 予 算

(単位:千円)

					金 額	
(教員関係経費)					11,973	
研 究 費	児童福祉学科		単価	教員数		
	○ 教 授		270	×	3	810
	○ 特 任 教 授		270	×	3	(学長含む) 810
	○ 准 教 授		260	×	10	2,600
	○ 准 教 授		260	×	1	新 任 260
	○ 専 任 講 師		250	×	1	新 任 250
	○ 助 教		50	×	1	50
	○ 昇任対象者差額		10	×	2	20
	○ 和泉特別研究費					600
	○ 大学教育改革推進プログラム					500
				19	計 5,900	
専 攻 科		単価	教員数			
○ 専 任 講 師		250	×	1	250	
○ 専 任 助 教		200	×	2	400	
○ 昇任対象者差額		50	×	1	50	
○ 和泉特別研究費					200	
				3	計 900	
				22名	合 計 (6,800)	
教 材 費 ○ 専任・非常勤教員					2,973	
旅費交通費 ○ 学 会 参 加 1回 @50まで 1人 2回まで 22名					2,200	
(施 設)					97,190	
建 物	内 容		設置場所	金 額		
	① 空調設備工事(ボイラー暖房設備廃止)		1号館 各 教 室、部 屋	取替更新	96,236	
				計 (	96,236)	
構 築 物	○ 芝地グラウンド門扉(引き戸)			取替更新	954	
				計 (	954)	
(設 備)	内 容		設置場所	7,671		
教育研究用	③ 出席管理リーダーライター		5 講 義 教 室	新 規	1,320	
機 器 備 品	③ 出席管理リーダーライター LAN敷設工事他			新 規	403	
	○ マークシートリーダー		1 教育学習支援ユニット	取替更新	1,048	
	○ プロジェクター本体		2 301 教室、A - 2 教室	取替更新	738	
				計 (	3,509)	
そ の 他 の	② オープン式冷蔵庫		4 売 店	新 規	2,497	
機 器 備 品	○ 出退勤磁気スライプIDカード書き込み機		庶 務 ユ ニ ッ ト	取替更新	225	
				計 (	2,722)	
図 書	○ 児童福祉学科 1,400 専攻科 40				1,440	
				計 (	1,440)	

2012(平成24)年度 事業計画(案) 予算

(単位:千円)

新規等の主な経費		内 容	個 数	場 所	金 額
実験実習費	○ 実習園謝礼品、巡回、連絡会他				21,250
	実習園謝礼品、巡回、連絡会他	専攻科			1,255
計 (					22,505)
消耗品費	② 売店変更に係るサイン、及び陳列用ラック他			売 店 新 規	294
	③ 出席管理LANケーブル他			教 室 新 規	388
	○ 学籍簿電子化			事 務 局 新 規	340
	○ 学籍簿電子化 専攻科			事 務 局 新 規	258
	○ スチール棚			1 階 倉 庫 取 替 更 新	195
	○ アプリケーションソフト検証用パソコン	3台		学 術 情 報 新 規	418
	○ 事務局用プリンター(バックアップ用)	3台		学 術 情 報 新 規	230
	○ キャリアカルテファイル本体	300冊		CDC 継 続	192
	○ 就業・入室管理システムバージョンアップ料			事 務 局 取 替 更 新	811
	計 (				
維持修繕費	① 空調機設置時スラブ補修工事他			1 号 館	2,020
	① 空調機設置時 地下タンク廃止工事			1 号 館	1,144
	② 売店変更に係る換気扇設備他			売 店	259
	③ 出席管理用ソフト基本保守料			教 育 学 習 支 援 ユ ニ ッ ト	612
	③ 出席管理システム配線			各 教 室	1,500
	○ ピアノ室外部フード塗装工事			1 号 館	600
	○ ボランティアセンター窓口改修			2 号 館	278
	○ ホームページ作成、保守料他	スマホ対応			1,280
	○ エレベーター機能維持、修繕			4 号 館	911
	計 (				
支払報酬 手数料	③ 出席管理SEデータ作成費				321
	○ 教務データバックアップ保管料				152
	○ 業務システム維持支援業務委託費				1,134
	○ スクールバス委託運行費	@855.75 × 4台 × 12 M			41,076
	○ 監査報酬、弁護士報酬、税理士報酬				2,805
	○ 学校法人格付け継続料				525
	○ 食堂委託管理費				2,400
	○ 管理人業務費、警備、5号館管理費				9,847
計 (					58,260)
賃 借 料	○ 職員用ノートパソコン、サーバー	25台 + 2台	事務局他	4年リース	594
	○ サーバー年間利用料	ポートフォリオシステム	CDC		1,202
	○ 防犯カメラシステム一式	本館、研究棟、体育館	カメラ16台、モニター、レコーダー他		1,000
	○ 教員用ノートパソコン	@18.4 × 19台	研究室		350
	○ コピー機、ファックス	事務局・研究棟	4台		339
	○ スクールバス駐車場	研究棟隣地	1,493㎡		2,400
	○ 借植木				385
	○ AEDレンタル	1台	CDC		63
	○ 公用車(軽自動車)リース料				358
	計 (				
奨 学 費 (給 付)	○ 眞鍋記念奨学金	2名	@365(2年生後期授業料)		730
	○ 児童福祉奨学金	1年後期、2年(前後期)	@100×1名 + @100×5名×2		1,100
	○ 卒業生・在学生家族	13名	@50(入学金一部減免)		650
	○ 特待生制度入試(成績、修学支援)	5名	(1年生前期授業料)		1,825
	○ 地震等 災害学生授業料減免	1名	(1年生前期授業料)		365
	計 (				

2012(平成24)年度 事業計画(案) 予 算

(単位:千円)

新規等の主な経費	内 容	個 数	場 所	金 額
広報宣伝費	○ 入学案内書、大学広告他			25,509
			計 (	25,509)
清掃費	○ 日常清掃、定期清掃		全 館	12,488
			計 (	12,488)
光熱水費	○ 電気料金			15,963
	○ 水道料金			2,038
	○ ガス料金			1,357
			計 (	19,358)
雑 費	① 既存空調機産廃処理費、フロン回収		1号館	9,378
	○ 一般・産業廃棄物処理費			1,015
			計 (	10,393)
既存建物 撤去費	① ボイラー配管、空調機撤去費他		1号館	8,636
			計 (	8,636)

※ 2012年度の主な施設設備整備計画

① 1号館空調設備取替更新工事	117,414
② キャンパスコンビニ移行に係る備品増設費他	3,050
③ 出席管理システム 5教室設置レコーダー	4,544
計	125,008